

| | |
|------------------|---|
| Title | 奥付 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1955 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.7 (1955. 7) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550701-0083 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

本號が編集されている時、茅團長以下、大内教授ら十五名がソ連視察に旅立たれた。(本號が刊行される頃には歸國されていよう。)
ソ連のこととなると、無暗にあげ足をとつたり、やたらに勇ましい議論が行われたり、まことに心許ないのが現状である。ソ連が戦前ひたすら前進を続け、戦後めざましい復興をとげたことは疑いない。しかし前進だけが續いているのではない。國有化されているコルホーズの土地が戦後不法に賣却されたことは周知の事實であるし、畜産の立ちおくれも頭痛の種である。又、コルホーズ員が自分の所有地や家畜を増大しようとしたり、ドミトリエフという行政官吏がルイセンコの庇護のもとに生物學の博士號を得ようとしたりする、利己的行爲。これらの事實はソ連の前進を阻むものではある。だからといって、これらがソ連の行きづまりを決定的にするとはいえない。大切なことは、ソ連がこれらの悩みを解決しようとして苦闘しているということなのである。

茅團長が出發に際し、「ソ連の科學、技術が發展したことは認めるが、最高水準にあるということは判らない」と述べた態度は、まことに、招かれて訪ソする人としてふさわしい。

濃縮ウランの受入れがきまつて、いよいよわが國も原子力解放に一步を踏みだし、あらゆる科學分野に廣い視野と協力が必要とされる時、この訪ソ團の成果が期待される。

(加藤 寛)

昭和三十年六月二十五日印刷 第四十八卷

昭和三十年七月一日發行 第七號

定價七十圓(送料)

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾大學經濟學會

編集兼 代表者 氣 賀 健 三

電話三田(局)五一八一

印刷者 東京都港区芝三田豐岡町八番地

川 口 芳 太 郎

印刷所 東京都港区芝三田豐岡町八番地

圖書印刷株式會社

半カ年豫約購讀料(含送料) 四二〇圓

一カ年 " " 八四〇圓

購讀希望の方は左記へ購讀料を添え御申込下さい。

發賣所 東京高輪局區内三田豐岡町八

慶 應 通 信

振替口座番號 東京一五五四九七